

## 頤椎について

### ①頭蓋骨-環椎-軸椎の連結

頭蓋骨と環椎は（ ）関節で連結している。  
この関節は形態的分類をすると、（ ）関節である。

### ②環軸-軸椎の連結

（ ）関節と（ ）関節があり、種々の靭帯が補強する形態的分類では前者は（ ）関節で、後者は（ ）関節である。  
頤椎の（ ）運動の多くの部分はここで行われている。

### ③軸椎-第3頤椎以下の連結

通常の脊椎と同様に（ ）関節で連結し、各椎体間に（ ）がある。  
成人では椎体の後外側に（ ）突起、または（ ）突起とよばれる突起があり、上下で小さい関節を形成する。

## 頤神経

第1頤神経～第8頤神経まであり、第1頤神経は、（ ）骨と（ ）の間から出る。  
第（ ）～（ ）頤神経前枝は（ ）神経叢を形成し、第（ ）～第（ ）は（ ）神経叢を形成する。

## 頤部の筋

### ①頤部の屈曲

頤部の屈曲に作用する筋は、（ ）、（ ）筋群、補助筋群として、（ ）筋群、（ ）筋群である。

### ②頤部の伸展

（ ）筋群、（ ）筋群、（ ）筋群、（ ）筋群。  
補助動筋として、胸鎖乳突筋である。  
脊柱起立筋群は、（ ）筋、（ ）筋、（ ）筋の3筋からなり、後頭骨から（ ）骨に及ぶ広い範囲に分布する。

### ③頤部の側屈・回旋

頤部、背部の筋で左右1対のものは運動の種類、強度によって何らかの関与をする。

## 頤部脊椎症

### 1-1：病理、病態

椎間板の変性に従って、（ ）の退行性変性⇒（ ）⇒椎間板後方膨隆または線維輪外層の椎体骨付着部の機械的損傷⇒（ ）靭帯の緊張という経過が椎体辺縁に（ ）を生じさせる。  
更にルシュカ関節、椎間関節の変性も生じる。  
そして、椎間孔の狭小化は（ ）症状を発生させる。  
脊髄症状発生には、（ ）による機械的圧迫と、血行障害、及び先天性の（ ）などの静的因子と、頤椎不安定に起因する動的因子が関与している。

### 1-2：症状

頸部脊椎症は、臨床症状によって、（ ）、（ ）、（ ）の3型に大別される。

- ①頸椎症：頸、項部から肩、背部にかけての（ ）と（ ）が主症状である。
- ②頸椎症性神経根症：上記症状の他に（ ）や（ ）などの異常感覚があり、頸椎運動で増悪したり放散したりする。
- ③頸椎症性脊髄症：指の巧緻運動や（ ）などの上、下肢機能障害、知覚障害及び（ ）障害がある。

### 1-3：診断

#### ①頸椎症

- a) 臨床所見：圧痛点と運動制限
- b) x線所見：単純x線像、CT像、椎間板像影像と疼痛再現性

#### ②頸椎症性神経根症

- a) 臨床所見：（ ）テスト、（ ）テスト、Eatonテスト、頸椎牽引テスト、腕神経叢伸展テスト
- b) 障害されやすいレベル：c（ ）～（ ）、c（ ）～（ ）、c（ ）～（ ）の順である。

#### ③頸椎症性脊髄症

- a) 臨床所見：ADLの障害
- b) 障害されやすいレベル：c（ ）～（ ）、c（ ）～（ ）に好発する。
- c) 神経学的所見：知覚障害、腱反射異常【上・下肢腱反射亢進と病的反射出現】、ミエロパチーハンド、運動障害等。

### OPLL（頸椎後縦靭帯骨化症）

### 2-1：概念

OPLLは、（ ）の異所性骨化により生ずる疾患である。  
本症は、（ ）以降の肥満型の（ ）性に発生しやすく、臨床では（ ）や、強直性脊椎増殖症との間に有意の関係があることが知られている。  
好発部位はc（ ）レベルで、以下c（ ）⇒（ ）⇒（ ）の順である。

### 2-2：症状

臨床症状によりOPLLは、脊髄症状群、（ ）、（ ）及び（ ）に分類される。  
治療の主対象となるのは脊髄症状群であり、（ ）や（ ）と同様の症状を呈する。

### 2-3：診断（評価）

- a) x線、CT、MRI所見
- b) 臨床症状：ADLの障害
- c) 神経学的所見：知覚障害、運動障害、腱反射異常

### 頸部椎間板ヘルニア

### 3-1：病理・病態

脊椎の退行性変性は（ ）から始まる。  
（ ）に豊富に存在するムコ多糖・蛋白複合体の加齢変化と共に、髄核の含水量は減少する。  
ここに種々の程度の外力が加われば、抵抗減弱または断裂した線維輪から髄核が脱出して

( ) を生ずる。

頸部脊柱管と脊髄の間は腰椎部に比べて余裕が ( ) ので、ヘルニアが小さいものであっても、直ちに ( ) 及び ( ) の圧迫を生じうる。

好発部位はc ( ) ~ ( )、c ( ) ~ ( ) 及びc ( ) ~ ( ) 椎間板といわれている。

### 3-2：分類・症状

- ①外側ヘルニア：神経根症状を呈する。
- ②中心性ヘルニア：脊髄症状を呈する。
- ③傍中心性ヘルニア：神経根症状と脊髄症状の両者を呈する。

### 3-3：診断（評価）

#### ①外側ヘルニア

- a) 臨床所見：頸椎症性神経根症に同じ
- b) 神経学的所見：( ) 障害、( ) 障害、( ) 異常
- c) x線所見

#### ②中心性ヘルニア

- a) 臨床症状：ADLの障害
- b) 神経学的所見：上・下肢腱反射 ( )、病的反射 ( )、( )、( )、膀胱障害

#### c) x線所見、筋電図、MRI

#### ③傍中心性ヘルニア

- ①、②の両者の所見